献呈の辞

瓶子長幸先生のご退職に寄せて

瓶子長幸先生は2020（令和２年）年２月にめでたく古希を迎えられました。しかし，このことは，2020年３月末日をもって定年でご退職されることをも意味します。経営学部での研究・教育に，40年間の長きにわたってご活躍された瓶子長幸先生が，本学の教壇を去られることは，約束ごととはいえ，非常に残念でなりません。特に，経営学部は，今年度より二学科制に移行し，これから変化していかなければならない状況にあります。その中では，瓶子先生がこれまで積み上げてこられた高い見識や貴重な経験が，何は変え何は変えないのかを考えていく上で活きてくると考えておりましたので，経営学部にとって大きな痛手であると言わざるをえません。ここに，瓶子先生のご略歴やご足跡，そして本学や社会への貢献を紹介し，衷心より感謝の意と惜別の念を表したいと思います。

瓶子先生は，1950年２月に福島県でお生まれになり，1973年３月に福島大学経済学部経済学科をご卒業なさいました。ご卒業後，一橋大学大学院商学研究科修士課程に進学し経営学及び会計学を専攻され1977年３月に商学修士の学位を取得されています。さらに博士課程へと進まれ，1980年３月に単位取得満期退学されました。そして，1980年４月より本学経営学部助手として入職され，1981年４月には専任講師，1983年４月には経営学部助教授，そして1989年４月には教授に昇格されました。

教育面では，瓶子先生は，会計入門，簿記基礎演習，企業法と会計情報，ゼミナール，などの科目に加え，大学院では，財務会計特論，財務会計特殊研究などの科目を担当されていらっしゃいました。瓶子先生は，学生さんのレベルに合わせて非常に平易に講義やゼミの演習を行い，理解できるとそれをステップアップさせていくということで定評があり，ゼミの学生さんにも人望があったと聞いております。先生の人柄がよく表れていると思います。

学内行政においても，瓶子先生は多大なる功績を残していらっしゃいます。経営学部長４年，会計学研究所長２年，スポーツ・ウェルネスプログラム運営委員会で７年，そのうち委員長４年，セクシュアル・ハラスメント防止委員会で４年，そのうち委員長２年，購買会連絡協議会委員で10年，そのうち委員長５年をはじめとして，社会知性開発研究センター運営委員会委員，就職指導委員会委員，図書館委員会委員，入学試験委員会委員，教員資格審査委員会委員など数々の委員を長きにわたり歴任されております。また，体育会サッカー部の部長も務められていらっしゃいました。

経営学部長時代の瓶子先生は，どんな時でも教授会構成員の話を真摯に聞き，多様な意見が出た場合でもソフトに語りかけ，うまく意見の集約を図っていたことを未だに覚えております。瓶子先生だからこそできる素晴らしい調整方法に感心しておりました。

一方，研究成果について言うと，30件を超える研究論文に加えて，共著は4冊あります。研究テーマは，ドイツ会計で終始一貫しておりました。こういった点から，温厚な方であると同時に，しっかり守るべきところは守るという一本筋が通った点もうかがえるかと思います。また，日本簿記学会，国際会計研究学会，日本会計研究学会に現在に至るまで所属され，中でも日本会計学会では，評議員を2期6年務められていらっしゃいました。

以上，瓶子先生のご活躍の一端を紹介させていただきました。瓶子先生の教育，学内行政，および研究におけるご功績は大変顕著なものがあり，このようなご功績に対して，専修大学経営学部は，2019年11月26日の教授会において，満場一致で瓶子先生を専修大学名誉教授に推薦させていただきました。ここに，瓶子先生からさまざまな形でご指導をいただいた後輩教員の最近の成果を募り，「専修経営学論集第109号」を『瓶子長幸教授退職記念号』として瓶子先生に献呈し，経営学部教員一同，衷心から深甚なる感謝と惜別の意を表する次第であります。

瓶子先生のご退職後のご健勝とご活躍を祈念するとともに，名誉教授として本学および本学経営学部にさらなるご指導，ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ，これまでのお礼とお別れのことばとさせていただきます。

令和2年3月

専修大学経営学部長　関根　純